

加藤清正公像

1979年に作られたこの銅像は、加藤清正（1562-1611）の生前の肖像画を基にしたものです。加藤清正は、1599年から1607年にかけて、肥後国主として熊本城の築城を監督しました。トレードマークの顎髭を蓄え、長烏帽子（黒い縦長の帽子の一種で、公家が着用していたものに似ています）をかぶり、武将が兵の指揮に使った房付きの棒を握っています。像は等身大よりやや大きめのサイズです。清正は、一般的に現在よりも男性の身長が低かった時代には大男でした。彼が最初に肥後国（現在の熊本県）に来たのは1588年のことです。当初は北半分のみを領していましたが、1600年の関ヶ原の戦いで勝利に貢献し、徳川家康（1543-1616）を天下統一に導いたことで、南半分の領土を与えられました。清正は数々の治水工事や干拓工事を行い、今日の熊本の礎を築きました。